



がんばれ高田 負けるな高田
できる できる できる!

【校訓】

自主・協力・創造

文責 校長 大串 久隆

「株式会社『高献』の商品づくりスタート！」

【1年生、梅摘み、梅漬け】

1年生が6月1日(火)に梅を収穫し、4日(金)に梅漬けを行いました。今年度は梅の実が豊作で、昨年度の100kgを大きく上回り、目標の120kgを達成できました。昨年、実をつけていなかった木にも、立派な梅の実がついており、自然の不思議さを感じました。生徒たちは、できるだけ取り残しをしないように、高いところの実も、長い棒で落としたりして、頑張っ



て集めました。これは、本当に梅なのかと目を疑うような、大粒の梅もたくさんありました。6月4日(金)の梅漬けは、調理室で地域の方にご指導いただきながら18班に分かれて、各班5kgずつ漬けました。材料の砂糖や酒、塩、酢、そして、ビニール袋など、全て出資いただいた大切なお金で準備したものです。株主の方や消費者に喜んでもらえる立派な梅干しをつくれるように、1年生みんな真剣に頑張りました。



今は、おいしい梅干しになるように、1年生が交代で樽を揺すったり、液漏れのトラブル対応などを行っています。

この後の予定は、土用干しをして、紫蘇漬けをしていく予定です。

9月末の学校祭で商品(梅干し)を披露できることを楽しみにしててください。

【2年生、高献の部署ごとの活動】

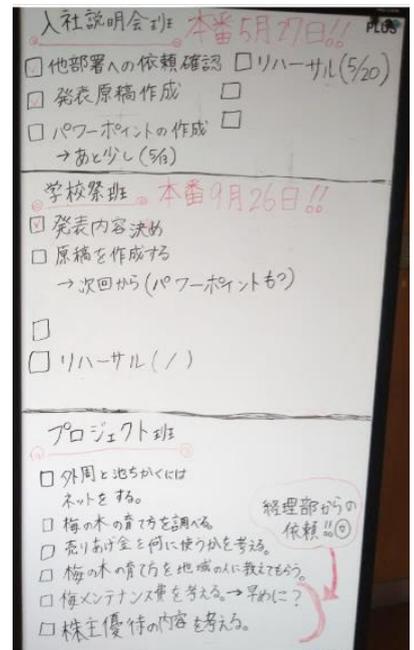
2年生は、経営企画部、経理部、商品部、広報部に分かれて、高献の中核として活動を行っています。

経営企画部は、梅の収穫量を増やすためのプロジェクトの運営や今後予定されている学校祭や株主総会の企画内容とそれに向けた様々な準備を行っています。(右のホワイトボードは、経営企画部の立案内容です。)

経理部は、1年生の梅漬けや紫蘇漬けに必要な物品代の計算とその購入計画、その他高献に関わる購入物の計画を行っています。

高献 経理部		梅干しプロジェクト	
活動内容	やりがい	千代紙	15
株券の作成	責任感がたまる	カットした(500円)	2
予算書、	言葉が保たれる	ラベルシール	5
株券販売	PCが好きな人	輪ゴム	4
劇	材料		
		合計	6,285
		その他	
		新商品開発費	20,000
		梅干し材料費	3,000
		事務費	3,000
		合計	53,000

梅干しプロジェクト	
白砂糖	1kg x 25 = 4,850
穀物酢	500cc x 25 = 2,375
塩	1kg x 15 = 2,070
漬け棚袋	15枚 x 15 = 2,250
ポリ手袋	250枚 x 8 = 3,922
炭酢	2 = 3,212
しずく	25kg x 1 = 3,000
キッチンタオル	10 = 2,380
合計	24,459
合計	83,744



商品部は、昨年度の商品に磨きをかけたり、新しい商品を開発したり、様々な取組を試みています。今年度、どのような商品ラインナップを行ってくるのか、どうぞ楽しみにしててください。

広報部は、CMやホームページづくりを行っています。撮影技術や編集技術を身に付けながらより高きを目指し、創意工夫を重ねています。

高献活動では、各部署のリモート会議や経理の収支計算、結実した梅の木と結実しなかった梅の木を分析するための画像収集、そしてCMやホームページづくりなどで、タブレット端末の機能をフル活用して、業務運営に生かしています。

「3年生『地域を創る』活動、炎天下に始動中です。」



3年生、61名で、地域を創る活動「龍踊」が4月から始動しています。龍方（じゃかた）33名とお囃子（はやし）28名で、高田中学校の「緑龍」と「白龍」を舞い踊らせるべく、練習を重ねています。

1年生では、自然の恵みの有り難さとともに、食品を作り提供したり販売したりすることの難しさとやりがいを学びました。

2年生では、人から信頼されることの有り難さと、人からの信託（出資）に応えたり、社会の一員として働き、利益や物を創り出す喜びと楽しさを学びました。

そして、3年生では、今、伝統芸能を学び、その表現を通して人を感動させようと努力しています。

5月末から6月にかけて、天気にも恵まれ、3年生は5・6校時の炎天下に、とてつもなく重い龍を振って、舞う練習をしています。指導者である百田さんの指示をしっかりと聞き、どんなにきつくても、常に、1度目よりも2度目の舞を向上させて取り組んでいます。

3年生の龍踊りに賭ける熱意と集中力、そして謙虚で実直な姿は、1年時、2年時の様々な学びが感謝と誠実さとなって、溢れ出てきているのではないのでしょうか。

秋の学校祭や株主総会で、高田中学校の全校生徒による「創造」の集大成が発揮されると思います。どうぞ、ご期待ください。



長崎県『こころねっこ運動強調月間』について

内閣府では、7月を「背少年の非行・被害防止全国強調月間」として青少年の健全育成を目指しており、長崎県は、この期間の取組を「こころねっこ運動強調月間」として、様々な活動を行っています。ここでは、それらのいくつかを紹介します。



(1) ペアレンタルコントロール等によるインターネット利用に係る犯罪被害の防止

「ペアレンタルコントロール」とは、「親としての制限」という意味があり、インターネット等通信機器に係る被害防止のためには、保護者の働きかけが大変重要であることを意味しています。

お子さんの通信機器にフィルタリングをかけたり、使用にかかわるルールを決めたりするとともにルールやマナーを守って情報機器を適切に使い、有効な情報活用能力を育ててほしいと思います。

(2) 薬物乱用防止対策、不良行為防止対策、いじめ・暴力行為等防止対策の強化

本校においても、薬物乱用防止教室やDV（ドメスティックバイオレンス）防止教室、メディア安全指導教室などを行い、生徒たちの健全育成とともに、日常生活の中に潜む危険について、常に注意をするような指導を行っています。また、いじめ防止や早期発見のために、日々の生活記録での交流や毎月の悩み調査、そして、個々の生徒との会話を何よりも大切にしています。

こころねっこ運動とは、心の結びつきを大切にして、子どもたちを大切に育てましょうという取り組みです。つまり、子どもとの心のつながりを、家庭や地域全体に広げて、社会全体で、子どもたちをはぐくむ運動です。わが子はもちろんですが、地域の子どもや町中で見かけた子どもたちにも、愛情を注ぎ、長崎県全体の子どもの成長を見守る環境づくりが整うことを願っています。